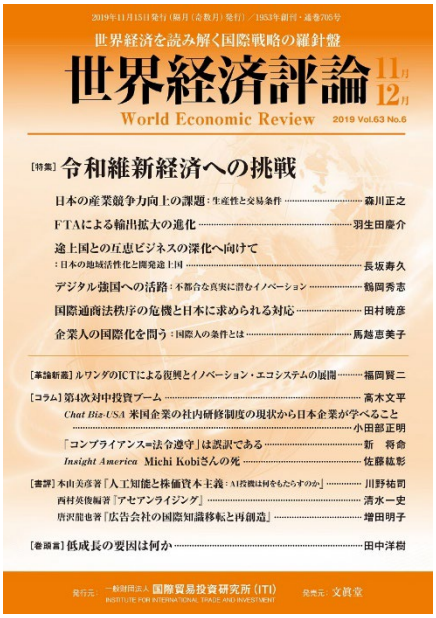
本論文は

世界経済評論 2019 年11/12月号

(2019 年 11 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内
年間購読料
1,320円×6冊=7,920円 ▶ 6,600円 税込
17% 送料無料 OFF
富士山マガジンサービス限定特典
※通巻682号以降
定期購読期間中 デジタル版バックナンバー 読み放題!!
世界経済評論　定期購読
[24時間・年中無休]
0120-223-223
お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。
Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

Michi Kobi さんの死

佐藤 紘彰

友人の Michi Kobi さんは，3 年半前の 2016 年 3 月 1 日，91 歳で亡くなった。女優で生涯独身だったミチさんは，最後の日々をどのように過ごしたのだろうか。

このビルのこの階でも，ぼくらが住み始めてから少なくとも二人の女性が独身で亡くなった。それら二人 Mary と Beatrice は，亡くなる前の何カ月，あるいはそれ以上の期間，看護婦が付き添っていたが，こうした場合，おかしなもので，隣人だった二人より，付き添いだった人たちとよく知り合いになり，一人はグルジャの良家の出身，英語の先生だったということすら知った。しかし，このアザさんが付き添った Mary さんの個人的なことといえば，ある時，秘書だった会社を辞めて retire できた時はとっても嬉しかった，と言ったことくらいである。

ブロードウェイ・ミュージカル

ぼくがミチさんと知り合いになったのは 1980 年代，ジェトロに日本から赴任してくる人に英語を教える，いわば家庭教師のアメリカ人女性が何人か夕方になると事務所に来た。中に初老の優雅な身なりの美人がいた。それがミチさんだった。

知り合ってから，ミチさんが 1942 年，西海岸の日本人・日系アメリカ人を強制収容所に収容・隔離するルーズベルト大統領措置の対象になった十万人の一人だったこと，その経験を織り込むアメリカ日本人移民のことを戯曲にしようとしたがうまくいかず，後に小説にするようにしていたことを知った。ぼくが 2015 年の晩秋，ブロードウェイ・ミュージカル Allegiance に誘って一緒に見たのはそのためだ。これは収容された人たちにアメリカ政府が忠誠誓約を求めた措置により収容者の間に生じた葛藤を描く。

ミチさんがアメリカ移民法の中でも一番厳しい，アジア人移民を完全に禁じた移民法が成立した 1924 年にサクラメントに生まれ，戦後女優として舞台に出，映画に出たことなどを知ったのは，ミチさんが亡くなって Japan Times に一文を書くべくインターネットで調べてからだった（March 31, 2016, “I became temporarily blind, deaf and paralyzed”）。

日本人と中国人の区別

ところで，ミチさんに，ある時，Kobi の元の姓は何ですかと尋ねたら「こびなた」という。そんな詩的な名前をどうして奇妙な Kobi に変えたのですかと言うと，当時は Kobinata などという長い外国名だったらとても売りだせなかったと答えてくれた。

それで思うのは，この夏 102 歳で亡くなった Dorothy Toy というダンサーのことだ。この人は 1917 年サンフランシスコで日本人夫妻の間に生まれ，名はシゲコ・タカハシだった。2009 年，92 歳の時の interview で本名を変えた理由を尋ねられて，戦前は「日本人は毛嫌いされたから誰もが中国風の名前に変えました。Toy を選んだのは，芸名は短い方がいいから」と答えたという。事実，Paul Wings という中国系人と組んで活躍した頃は，「中国版 Fred Astaire と Ginger Rogers」を看板に売り出した。

そういえば，A Pocket Guide to China という小冊子もあった。アメリカ政府が 1942 年出したが，その一部に，How to Spot a Jap を設け，日本人と中国人を見分ける方法を一連の漫画で示してある。これも国民感情を政府が誘導する一例だろうが，滑稽な日本人と中国人との区別とは別に，この漫画を引き受けた Milton Caniff の描く「アメリカ人」のイメージは，人種差別を呼号して大統領になった Donald Trump が念頭に置い

てあるものに違いない。

ともかく，ぼくは独り住まいのミチさんのことは，ほとんど何も知らなかったと言っていい。そこで，ミチさんとは1990年代の終わり頃からの知り合いの方で，ミチさんの健康が急速に衰え始めてからはご夫君が何度も病院に付き添い，死後，葬式だけでなくミチさんの未完の原稿ほか書籍などの引き受け先を探すのに奔走，苦労したMargaret Nakamuraさんに尋ねてみた。マーガレットさんは，それでも，ミチさんの経歴などはほとんど知らず，それを知ったのは亡くなって色々調べてからのことだったと言い，こんな都市で一人で死ぬことは誰もが恐れることですと前置きして知人の死の例をいくつか挙げ，ミチさんの最後の二，三カ月ほどのことを詳しく次のように教えてくれた。

ミチさんはある程度の貯金はあったが大した額ではなかった。それでも残ったものは日本の家族，特に尾道の弟に送るつもりだった。高齢になるまでモデルとして働いたこともありそちらの方からの収入がいくらかあった。投資もいくらかあった。アパートはrent controlがかかっていたので，あまり高くなかった。

そのアパートにはぼくも一度行ったことがある。East Sideの48丁目の古い3階建てのビルで，作家のKurt Vonnegutも住んでいたと聞いた。

ミチさんはメディケア積立をしており，映画やテレビの俳優などの作る連盟に加わっていたが，後者の保険は何も役立たず，家庭看護の経費などは到底賄えなかった。何度か短期的入院が必要になってからは，他の二，三の友達と郵便物その他必要なものを手伝った。ある時，腎臓に腫瘍のあることが分かり癌の可能性濃厚と判定されたが，ミチさんが長年かかっていた内科医が手術に強く反対したため，結局はやらなかった。

ミチさんの健康状況は2015年末から2016年初までには危機的状態に達して，ついにLenox Hill病院の救急医療室に運ばれ，入院した。そこで10日ほどいたが，とてもアパートに帰る状態ではなく，そこで老人ホームとホスピスを併せたMary Manning Walshに移った。充てられた部屋は居心地の良いものではなく，私は少しでも家庭的雰囲気を作り出そうと絵画を二，三飾り，また，ミチさんの必要としたパソコンを持ち込もうとしたが，それを実現する前にホスピスに移動された。これはミチさんには大打撃だったに違いない。

ただ，遺書がまだできておらず，それを慌てて作って，必要な署名を得た。

こうした費用はメディケアと，ミチさんの計理士の画策によりメディケイドで賄うことができた。

高い看護付きアパート

ちなみに，マーガレットさんのお父さんは90歳頃まで矍鑠として一人でアパートに住んでいた。しかし，交際し始めたミチさんがお父さんの高齢者症状に気づいて勧めたこともあって，介護付きアパートを見つけて移ってもらった。2008年に亡くなったが，その経費を知ったら激怒したに違いない，とマーガレットさんはおっしゃる。

さとう　ひろあき　翻訳家，コラムニスト在NY